

地域ボランティア プログラム

「竹林整備(間伐)」

2016/10/1



指導してくださった遊学会の方々

学生たちの竹伐採にあたっては、「ひなた緑地遊学会」に所属するベテランの方々(約10人)にご指導いただきました。定年退職後にこの活動を始められた方や、15年以上も森林ボランティアを続けている方もおられ、歩きづらい急な斜面でも難なく歩いて登っておられたのが印象的でした。様々な知識や技術を教えてください、交流も深まりました。



～活動内容～

10月1日(土)、地域ボランティアプログラムの最初の活動として、松木日向緑地に広がる竹林の間伐作業を行いました。14人の学生が参加し、作業には「ひなた緑地遊学会」の指導員数名と学生がグループになり、3つのグループに分かれて活動しました。枯れた竹や細い若い竹、樹木の周囲に生えている竹を優先的に伐採し、「人が傘をさして歩ける程度」の密度を目標として活動にあたりました。参加した学生の多くは未経験であったため、ノコギリの扱いなどには四苦八苦しているようでした。午前中の3時間ほどの活動でしたが、それでも疲れた様子で、竹林整備の大変さを感じたようです。

切った竹は保管場所まで運び、次回の竹炭や竹紛堆肥づくりに活用していきます。

～参加した学生の声～

- ・今回はあまり疑問を感じず活動したので、視野を広げて質問もできるように関心ももちたい。
- ・虫に悩まされつつも、南大沢には豊かな自然があるということをもっと感じられ、楽しく活動できた。
- ・竹林整備活動で、実際に問題の深刻さを実感したので、このような活動に積極的に参加したいと思った。
- ・同じ学部の先輩が、遊学会の方々に自発的に話しかけていたのを見て、自分も次回からはそういう風に接点をもっていきたい。
- ・自分は竹を切るのに精いっぱいだったが、活動時の遊学会の方々は、竹を倒すなどの危険が伴う作業の時以外は楽しそうにしているのが印象的だった。次回は遊学会の方々のそういった姿勢にも注目していきたい。
- ・私は少しいであるが、実際に竹林の整備を体験したことがあるので、周りの人を助けながら活動したい。全員の活動が円滑に進むように率先して動いていきたい。
- ・今回は竹林整備に重点を置いた活動だったが、次回の竹炭作りでは竹の利用方法を学ぶことで里山についての知識を身に付けたい。